

## 「大諸県」と「小諸県」

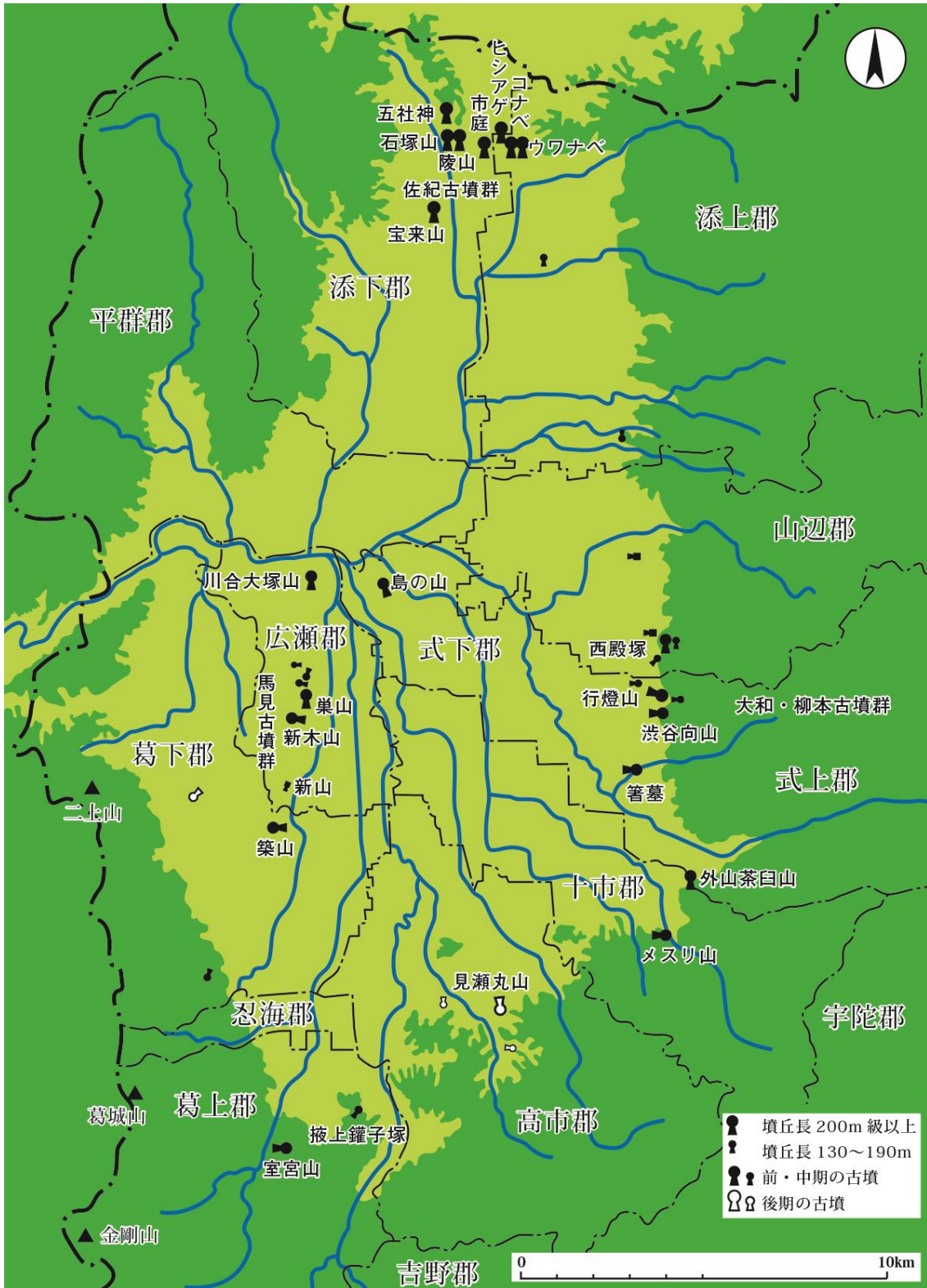
現在、当館では特別展「日向諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>君と葛城氏」を開催中である。大王家と密接な関係を築いた古代豪族として『古事記』『日本書紀』に名を残す「諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>君」と「葛城氏」の実態について考古資料から考えようとするもので、両者の活動がピークを迎える5世紀代に大王墓が営まれた大阪平野の百舌鳥<sup>もすず</sup>・古市<sup>ふるいち</sup>古墳群から出土した資料や、「葛城氏」の本拠地とされる奈良盆地南西部の古墳・集落から出土した資料を多数お借りして、南九州の資料と比較するという展示構成をとっている。

ところで、「葛城氏」の拠った葛城地域の範囲をどこまでとするかについては、古代史・考古学ともに二つの説が存在する。下にあげた奈良盆地の地図を見ていただきたいのだが、奈良時代になってから設定された郡域のうち葛<sup>かつらぎのかみ</sup>上<sup>おしぬみ</sup>・忍海<sup>かつらぎのしも</sup>・葛<sup>ひるせ</sup>下の三郡全域に広瀬郡もあわせた地域であったとする説と、葛上<sup>かつらぎのかみ</sup>・忍海<sup>おしぬみ</sup>両郡から葛下南部にとどまり二上山<sup>にじょうさん</sup>山麓が北限であったとする説である。前者の葛城地域を広くとらえる説を「大葛城説」、後者の狭く捉える説を「小葛城説」ということもある。どちらの説にも様々な論拠があるのだが、あえてポイントを絞るのであれば、大葛城説は広瀬郡に展開する馬見<sup>うまみ</sup>古墳群まで含めた地域における大型古墳の動向を重視する立場であり、小葛城説は文献資料の記述と現存する地名や神社名の照合に重きをおく立場といえる。

興味深いのは、「諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>君」の本拠地とされる諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>地域を検討するにあたって同じような構図が見られることである。古墳時代中期の日向は現在の宮崎県に鹿児島県の大部分を加えた広大な地域であったと考えられている。九州島内には墳丘長120mを超える大型古墳が12基あるが、そのうち8基が日向灘<sup>ひゅうがなだ</sup>・志布志湾<sup>しぶしわん</sup>に面した日向の東岸側に集中しており、5世紀前半頃には宮崎平野の西都原古墳群に九州最大の前方後円墳である女狭穂塚<sup>めさほづか</sup>と日本列島最大の帆立貝形古墳である男狭穂塚<sup>おさほづか</sup>が築造される。これらの地域は古墳の規模や形、副葬品や埴輪の特徴から畿内の勢力と密接な関係を築いていたことが確実であるが、諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>という地名との関わりは確認できない。その一方で諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>地名が残るのは、奈良時代に設定された諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>郡に由来する宮崎県の西・東・北諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>郡に鹿児島県の曾於<sup>そお</sup>地域の一部をあわせた範囲である。この地域には宮崎平野西部の本庄<sup>ほんじょう</sup>古墳群を除くと前方後円墳などの高塚古墳が少なく地下式横穴墓が卓越するなど、どちらかといえば独自の地域性が目立つ。古墳時代における諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>地域の範囲を考えるにあたり、現存する諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>地名を重視するのであれば「小諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>説」、南九州広域における大型古墳の動向を重視するのであれば「大諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>説」ということもできよう。

「大諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>説」と「小諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>説」のどちらが実態に即しているのか、現時点で答えを出すことは難しいが、ぜひ今回の展示をご覧ください「諸<sup>もろかたのきみ</sup>県<sup>かつらぎし</sup>君」の活躍した時代に思いを馳せていただきたい。

(堀田孝博)



奈良盆地における旧郡域と大型古墳の分布 (白石 2014 より改変・掲載)

【参考文献】

白石 2014 「古墳からみた葛城地域の政治勢力の動向」『ヤマト王権と葛城氏』 大阪府立近つ飛鳥博物館